平成27年7月 Vol.2

県立広島大学 AP事業推進部会ニュース

平成26年度文部科学省大学教育再生加速プログラム（テーマI）選定事業

大学教育再生加速プログラム

生涯学び続ける自律的な アクティブ・ラーナーの育成をめざして

AP事業推進部会長　**馬本 勉**

今年度よりAP事業推進部会長を務めることとなりました。「アクティブ・ラーニング」という言葉を全学に浸透させ，形あるものとするべく力を尽くして参ります。ご協力のほど，よろしくお願いいたします。

私たちは，県大型アクティブ・ラーニングを「CLAL（Campus Linkage Active Learning）」と呼んでいます。約100キロというキャンパス間の距離は，マイナス面と見られるかもしれません。しかしそれは，相互交流を生み出す「創意工夫の源」となりましょう。繋ぐべきは3キャンパスにとどまらず，サテライトキャンパスも，「県全域がキャンパス」を謳う本学の位置する広島県も，すべてが含まれます。

こうした「キャンパスの結びつき（Campus Linkage）」の中で「能動的な学び（Active Learning）」を創る鍵は，行動・参加することを通じ，物理的・心理的な距離を縮めることでしょう。昨年度に引き続き行動型・参加型への授業改善を進め，CLAL（クラル）にこめられた思いを達成していきたいと思います。

県大AP 始動!!

平成27年3月7日に開催した教育改革フォーラムでは，本格始動した県立広島大学の大学教育再生加速プログラム（AP）事業の報告を行いました。今年度は能動的学修（アクティブ・ラーニング）を更に推進し，本学の教育改革を加速させていきます。

平成26年度教育改革フォーラムを開催しました

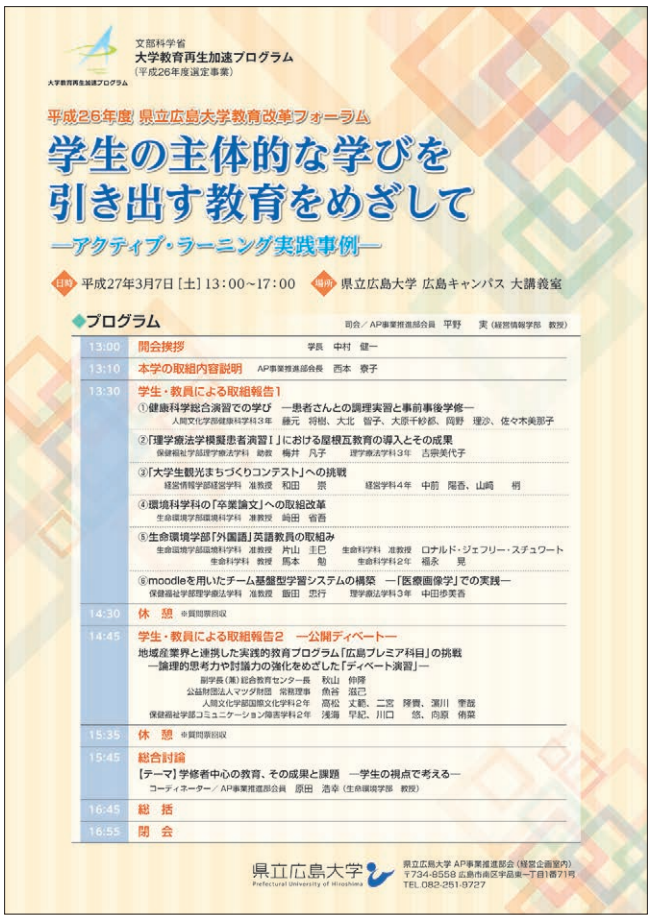
平成27年3月7日，広島キャンパス大講義室を会場として「平成26年度県立広島大学教育改革フォーラム」を開催しました。

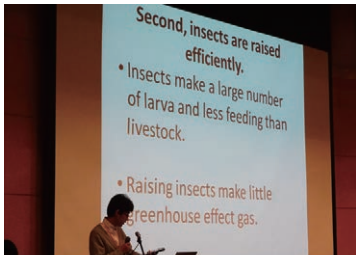
初年度のフォーラムは，既に学内で実施されている能動的学修の実践報告を中心に開催しました。まず「学生・教員による取組報告1」では，各キャンパスより2例ずつ，具体的なアクティブ・ラーニングについて学生と教員による事例紹介を行いました。

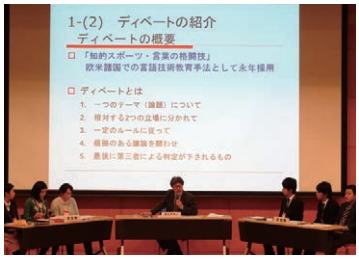
続いて「学生・教員による取組報告2」では，地域産業界と連携した実践的教育プログラムである「広島プレミア科目」を取り上げ，科目の概要紹介，及び公益財団法人マツダ財団 常務理事の魚谷滋己氏をチェアマンに迎え，学生による「公開ディベート」を行いました。

最後に，総合討論でフロアからの質問や意見を踏まえた討議を行った後，本学AP評価委員会の委員である肥後功一 島根大学教授より総括のコメントを頂きました。肥後先生からは，フォーラムでの報告を受けて「個々の教員の力だけではなく，組織的に取り組まなければならない」，「成績評価の実質化では，PDCAのCheckの部分が重要である」，「アクティブ・ラーニングは知的能動性の喚起を目的としなければならない」といった，本学のAP事業に対する多くの貴重なご指摘がありました。

今回のフォーラムは，成果報告の場であるとともに，報告事例を通じて本学AP事業のあり方を考える良い機会となりました。フォーラムは今年度以降も継続的に実施していきます。







教学マネジメントの構築にかかる学内研修会を開催しました

平成27年3月23日，広島キャンパスを主会場に，本学の教職員を対象とした「教学マネジメントシステムの構築にかかる学内研修会」を開催しました。講師には，玉川大学経営学部教授で，教学部長（当時）である菊池重雄先生をお招きし，第一部に講演会，第二部に意見交換会を実施しました。

第一部では「能動的学修を促進する教学マネジメントシステムの構築」をテーマに，近年の大学改革における動向と課題，玉川大学の改革事例，ファカルティ・ディベロッパー（FDer）の役割等について講演を頂きました。講演は遠隔講義システムを通して，庄原キャンパス・三原キャンパスにも同時配信されました。

講演会後の第二部では，希望者を対象として，菊池先生との意見交換会を実施しました。第一部で紹介された玉川大学の教育改革について，参加者から積極的に質問がなされるなど，活発な議論が行われました。

本研修会は，FDer養成を掲げる本学のAP事業にとって示唆に富むお話をいただいたとともに，全学で課題の共有を図る有意義な時間となりました。講師の菊池先生に改めて感謝を申し上げます。

行動型学修に係る経費助成を行っています

本学では，学外におけるフィールドワークや現場体験を伴う能動的学修を推進しています。授業における能動的学修の導入を加速させるため，AP事業推進部会では行動型学修へ参加する学生に対して，移動に係るバス代などの経費を助成する事業を行っています。

この経費助成事業では，申請のあった取組について，学内運用ルールに基づいて内容を精査し，AP事業推進部会による審議のうえ，助成の可否が決定されます。（助成対象経費は右記のとおり）

なお，経費助成を受けた行動型学修の成果は,報告書の提出や報告会をもって学内で共有します。また申請者である教員は，FDer候補者として学内FDの企画に携わっていきます。

行動型学修の経費助成対象

◇交通費
借上バス利用料等を助成
（駐車場代，高速道路利用料金を含む）

◇宿泊費
行動型学修を行う場所及び時間を考慮し，
宿泊が必要な場合に限り，宿泊料金を助成

◇参加費
施設等への入場料，見学料，
各種審査へのエントリー料を助成

参加型学修用タブレットPCの貸出を開始しました

ラーニング・コモンズの様子（広島キャンパス図書館3階）

本学では26年度，参加型学修を推進するための環境整備の一環として，広島キャンパス図書館2階のラーニング・コモンズに，大型電子黒板1台とタブレットPC10台を配備しました。このうちタブレットPCについては，4月から学生への貸し出しを開始しています。

このタブレットPCは，ラーニング・コモンズの利用者であれば，予約のうえ利用が可能です。電子黒板との連動によるプレゼンテーションの練習や，グループでの議論など，アイディア次第で多様な活用方法が想定されます。

平成27年度以降はタブレットPCの更なる増設を計画しています。ラーニング・コモンズを運営する学術情報課と一層の連携を図り，引き続き多くの学生が利用可能な環境を整え，参加型学修に取り組む学生のニーズに応えていきます。

pickup 県大型アクティブ・ラーニング事例紹介 ～行動型学修編～

科目名：情報システム実験・情報技術基礎論（経営情報学部合同授業）

担当教員：小川 仁士 教授（情報技術基礎論：2年次選択科目）
肖 業貴 教授（情報システム実験：2年次必修科目）

【授業の概要】

経営情報学科2年生39名が，行動型学修に係る移動費の助成を受け，株式会社NTTデータ中国のデータセンター及び新川センサテクノロジ株式会社のシステム製造工場を見学しました。データセンターでは，データビジネスの最先端に触れるとともに，セキュリティ管理の重要性について，身をもって体験することができました。システム製造工場においては，先端情報システムの組み立て現場等の見学を通して，高度な情報処理システムに触れることができました。

今後，授業の中で，今回見学したシステムを具体例として取り上げる予定となっており，授業内容の充実化が見込まれています。

【参加した学生の声】

・実際に自分の目で見ることが大きな理解につながった。
・製品製造に興味が持てた。
・情報系の学科なので，この企業訪問で学んだことが，今後の生活の財産になると思う。

新川センサテクノロジの職員の皆様と

シリーズ県大生へ　県立広島大学の単位制度について

＜単位制度の意味と授業外学修について＞

◆ 大学設置基準第二十一条の2において，1単位の授業科目は，45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが謳われています。

◆ 45時間の中には，大学での授業時間（1コマで2時間*）と，自宅等で行う授業外学修時間が含まれます。（*本学では，1コマ（90分）を「2時間」としてカウントします。）

◆ 学生便覧の教育課程表上，授業時間数が「30」と示されている授業は，週1コマの授業を15週行うという意味です。週1コマの授業で修得できる単位数は，1（主に演習科目），もしくは2（主に講義科目）です。

◆ 必要とされる授業外学修時間は，次の通りです（授業外学修時間は「1時間=60分」でカウント）。

必要とされる授業外学修時間

科目の単位数	(a)必要とされる学修時間	(b)授業時間（週1コマ×15週）	(c)授業外学修時間(a-b)	(d)週あたりの授業外学修時間(c÷15)
1	45	30	15	1
2	90	30	60	4

【例】A子さんの場合：1単位科目 を6科目＋ 2単位科目 を9科目　履修

	月	火	水	木	金
1			演習（2単位）		演習（2単位）
2	演習（1単位）	講義（2単位）		講義（1単位）	講義（1単位）
3	演習（1単位）	講義（2単位）		講義（2単位）	
4		演習（1単位）	講義（1単位）	講義（2単位）	演習（2単位）
5	講義（2単位）		講義（2単位）		

授業外学修に求められる時間数

1単位科目：　週1時間×6科目＝　6時間
2単位科目：　週4時間×9科目＝ 36時間
計　週42時間

◆ A子さんは週に42時間の**授業外学修**（もちろん，授業時間は除きます）が必要です。これは，例えば週末を使って12時間勉強する場合，残りの30時間は月～金の5日間で学ばなくてはなりません。つまり，週末の12時間に加え，平日は平均6時間の**授業外学修**が必要ということになります。

◆ 授業外学修には，学内では図書館，ラーニング・コモンズ，コンピュータ室，CALL教室などが利用できます。学外からアクセスできるeラーニング教材もありますので，学生の皆さんは積極的に活用しましょう。

■ 県立広島大学　AP関連ホームページ

AP事業紹介ページ
http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/ap/
ラーニング・コモンズ紹介ページ
http://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/lcs/

■ 本学AP事業に関するお問い合わせ先

県立広島大学　AP事業推進部会
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号
E-mail：kaikaku@pu-hiroshima.ac.jp
Tel：082-251-9710（直通），Fax：082-251-9181

編集後記

今回のニュースの編纂にあたっては，アイディアを巡らすために様々な広報物に目を通しました。他大学のニューズレターや学部・学科の紹介資料，あるいは自治体の広報誌などを手に取りましたが，「書き手側の様子が伝わり，『○○らしさ』を感じられる広報誌とはどのようなものか」ということについて深く考えさせられました。

さて，今号にどれだけの「県大らしさ」が表れているかは分かりませんが，4年というAP推進の事業期間を通じて大きく生まれ変っていく県大の姿を，このニュースを通して少しずつでも伝えていければと考えております。今後にどうぞご期待ください

（AP事業推進部会ニュース編集担当　伊藤 俊）

Acceleration Program
大学教育再生加速プログラム

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima